

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画に基づく事業)

令和7年1月24日

協議会名: 徳島県地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
徳島バス株式会社	申請番号1 鳴門公園線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号1 鳴門公園線></p> <p>【利用者数】62,091人/年 (対前年比:34.8%) (対前々年比:95.5%)</p> <p>【1便あたり利用者数】26.4人</p> <p>【収支率】56.6% (対前年比:-9.9%) (対前々年比:+8.8%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できなかった。 路線再編により、運行便数が減少したことが要因だと考えられる。 労働条件の改善として賃上げや、物価高騰により運行経費が増大したことも要因だと考えられる。</p>	<p>次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。</p>
徳島バス株式会社	申請番号2 鳴門下板線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号2 鳴門下板線></p> <p>【利用者数】88,839人/年 (対前年比:156.6%) (対前々年比:128.8%)</p> <p>【1便あたり利用者数】39.7人</p> <p>【収支率】88.8% (対前年比:+17.0%) (対前々年比:+10.5%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。 コロナ禍が明け、鳴門教育大学生の需要が回復したことなどにより、利用者が増加したと考えられる。</p>	<p>次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。</p>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
徳島バス株式会社	申請番号3 鳴門下板線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号3 鳴門下板線></p> <p>【利用者数】41,925人/年 (対前年比:103.6%) (対前々年比:87.3%)</p> <p>【1便あたり利用者数】22.9人</p> <p>【収支率】37.2% (対前年比:▲8.9%) (対前々年比:▲9.1%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できなかった。 新型コロナウイルス後、ライフスタイルの変化等により、通勤、通学や通院などの日常利用が減少したと考えられる。 労働条件の改善として賃上げや、物価高騰により運行経費が増大したことも要因だと考えられる。</p>	<p>次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。</p>
徳島バス株式会社	申請番号4 鳴門下板線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号4 鳴門下板線></p> <p>【利用者数】83,594人/年 (対前年比:130.5%) (対前々年比:118.2%)</p> <p>【1便あたり利用者数】19.1人</p> <p>【収支率】51.6% (対前年比:10.4%) (対前々年比:▲1.8%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。 鳴門市内における、鳴門公園線への乗り継ぎ需要が増加したことが要因だと考えられる。</p>	<p>次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。</p>
徳島バス株式会社	申請番号5 鳴門上板線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号5 鳴門上板線></p> <p>【利用者数】68,731人/年 (対前年比:145.7%) (対前々年比:140.3%)</p> <p>【1便あたり利用者数】20.2人</p> <p>【収支率】40.8% (対前年比:+7.2%) (対前々年比:+5.5%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。 新型コロナウイルスの5類移行による需要回復などもあり利用が増加したと考えられる。</p>	<p>次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。</p>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
徳島バス株式会社	申請番号6 鳴門藍住線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。</p> <p>利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。</p> <p>また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。</p> <p>さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号6 鳴門藍住線></p> <p>【利用者数】9,489人/年 (対前年比:45.8%) (対前々年比:42.8%)</p> <p>【1便あたり利用者数】15.8人</p> <p>【収支率】24.6% (対前年比:+1.7%) (対前々年比:+6.6%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。</p> <p>観光需要の増加に伴い、鳴門公園～徳島空港間で利用が伸びたことが要因だと考えられる。</p>	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。
徳島バス株式会社	申請番号6' 鳴門公園線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。</p> <p>利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。</p> <p>また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。</p> <p>さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号6' 鳴門公園線></p> <p>【利用者数】48,789人/年 (対前年比:-%) (対前々年比:-%)</p> <p>【1便あたり利用者数】34.4人</p> <p>【収支率】58.2% (対前年比:-%) (対前々年比:-%)</p> <p>路線再編に伴い、徳島駅～徳島空港～鳴門公園間を運行するようになり、利用者が増加したことが要因だと考えられる。</p>	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。
徳島バス株式会社	申請番号7 グリーンタウン線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。</p> <p>利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。</p> <p>また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。</p> <p>さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号7 グリーンタウン線></p> <p>【利用者数】21,095人/年 (対前年比:95.8%) (対前々年比:113.6%)</p> <p>【1便あたり利用者数】8.2人</p> <p>【収支率】35.0% (対前年比:▲10.5%) (対前々年比:+0.3%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できなかった。</p> <p>新型コロナウイルス後、ライフスタイルの変化等により、通勤、通学や通院などの日常利用が減少したと考えられる。</p> <p>労働条件の改善として賃上げや、物価高騰により運行経費が増大したことも要因だと考えられる。</p>	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
徳島バス株式会社	申請番号8 鍛冶屋原線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号8 鍛冶屋原線></p> <p>【利用者数】69,747人/年 (対前年比:146.0%) (対前々年比:126.7%)</p> <p>【1便あたり利用者数】23.9人</p> <p>【収支率】45.2% (対前年比:+5.9%) (対前々年比:+0.4%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。 新型コロナウイルスの5類移行による需要回復などもあり利用が増加したと考えられる。</p>	<p>次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。</p>
徳島バス株式会社	申請番号9 名田橋線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号9 名田橋線></p> <p>【利用者数】32,615人/年 (対前年比:135.5%) (対前々年比:136.6%)</p> <p>【1便あたり利用者数】17.9人</p> <p>【収支率】37.5% (対前年比:▲1.3%) (対前々年比:+4.2%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できなかった。 新型コロナウイルス後、ライフスタイルの変化等により、通勤、通学や通院などの日常利用が減少したと考えられる。 労働条件の改善として賃上げや、物価高騰により運行経費が増大したことも要因だと考えられる。</p>	<p>次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。</p>
徳島バス株式会社	申請番号10 名田橋線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号10 名田橋線></p> <p>【利用者数】20,896人/年 (対前年比:112.2%) (対前々年比:119.7%)</p> <p>【1便あたり利用者数】15.5人</p> <p>【収支率】28.6% (対前年比:▲3.7%) (対前々年比:+2.5%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できなかった。 新型コロナウイルス後、ライフスタイルの変化等により、通勤、通学や通院などの日常利用が減少したと考えられる。 労働条件の改善として賃上げや、物価高騰により運行経費が増大したことも要因だと考えられる。</p>	<p>次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。</p>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
徳島バス株式会社	申請番号11 北島藍住線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号11 北島藍住線></p> <p>【利用者数】22,636人/年 (対前年比:131.9%) (対前々年比:93.2%)</p> <p>【1便あたり利用者数】16.2人</p> <p>【収支率】45.2% (対前年比:3.7%) (対前々年比:▲5.1%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。 新型コロナウイルスの5類移行による需要回復などもあり利用が増加したと考えられる。</p>	<p>次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。</p>
徳島バス株式会社	申請番号12 応神藍住線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号12 応神藍住線></p> <p>【利用者数】29,495人/年 (対前年比:128.6%) (対前々年比:82.8%)</p> <p>【1便あたり利用者数】13.5人</p> <p>【収支率】34.5% (対前年比:▲1.5%) (対前々年比:▲1.2%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できなかった。 新型コロナウイルス後、ライフスタイルの変化等により、通勤、通学や通院などの日常利用が減少したと考えられる。 労働条件の改善として賃上げや、物価高騰により運行経費が増大したことも要因だと考えられる。</p>	<p>次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。</p>
徳島バス株式会社	申請番号13 竜王団地線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号13 竜王団地線></p> <p>【利用者数】40,588人/年 (対前年比:141.4%) (対前々年比:117.0%)</p> <p>【1便あたり利用者数】13.4人</p> <p>【収支率】48.6% (対前年比:+4.6%) (対前々年比:+1.5%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。 新型コロナウイルスの5類移行による需要回復などもあり利用が増加したと考えられる。</p>	<p>次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。</p>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
徳島バス株式会社	申請番号14 竜王団地線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号14 竜王団地線></p> <p>【利用者数】11,562人/年 (対前年比:83.1%) (対前々年比:98.0%)</p> <p>【1便あたり利用者数】7.3人</p> <p>【収支率】24.3% (対前年比:▲8.2%) (対前々年比:▲7.5%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できなかった。 新型コロナウイルス後、ライフスタイルの変化等により、通勤、通学や通院などの日常利用が減少したと考えられる。 労働条件の改善として賃上げや、物価高騰により運行経費が増大したことも要因だと考えられる。</p>	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。
徳島バス株式会社	申請番号15 石井上板線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号15 石井上板線></p> <p>【利用者数】31,976人/年 (対前年比:143.0%) (対前々年比:270.2%)</p> <p>【1便あたり利用者数】17.5人</p> <p>【収支率】31.0% (対前年比:+3.8%) (対前々年比:+15.6%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。 新型コロナウイルスの5類移行による需要回復などもあり利用が増加したと考えられる。</p>	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。
徳島バス株式会社	申請番号16 鴨島線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号16 鴨島線></p> <p>【利用者数】58,976人/年 (対前年比:138.0%) (対前々年比:129.0%)</p> <p>【1便あたり利用者数】16.7人</p> <p>【収支率】32.0% (対前年比:+2.7%) (対前々年比:+3.7%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。 新型コロナウイルスの5類移行による需要回復などもあり収支が改善したと考えられる。</p>	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
徳島バス株式会社	申請番号17 高原線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号17 石井高原線></p> <p>【利用者数】36,080人/年 (対前年比:141.7%) (対前々年比:110.2%)</p> <p>【1便あたり利用者数】18.6人</p> <p>【収支率】44.2% (対前年比:+3.6%) (対前々年比:+0.8%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。 新型コロナウイルスの5類移行による需要回復などもあり収支が改善したと考えられる。</p>	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。
徳島バス株式会社	申請番号18 神山線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号18 神山線></p> <p>【利用者数】45,542人/年 (対前年比:122.9%) (対前々年比:184.8%)</p> <p>【1便あたり利用者数】19.7人</p> <p>【収支率】31.4% (対前年比:▲4.8%) (対前々年比:▲2.0%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できなかった。 新型コロナウイルス後、ライフスタイルの変化等により、通勤、通学や通院などの日常利用が減少したと考えられる。 労働条件の改善として賃上げや、物価高騰により運行経費が増大したことも要因だと考えられる。</p>	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。
徳島バス株式会社	申請番号19 神山線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号19 神山線></p> <p>【利用者数】37,885人/年 (対前年比:131.1%) (対前々年比:144.5%)</p> <p>【1便あたり利用者数】31.3人</p> <p>【収支率】58.2% (対前年比:▲3.1%) (対前々年比:+10.2%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できなかった。 新型コロナウイルス後、ライフスタイルの変化等により、通勤、通学や通院などの日常利用が減少したと考えられる。 労働条件の改善として賃上げや、物価高騰により運行経費が増大したことも要因だと考えられる。</p>	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
徳島バス株式会社	申請番号20 佐那河内線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号20 佐那河内線></p> <p>【利用者数】37,550人/年 (対前年比:173.9%) (対前々年比:167.7%)</p> <p>【1便あたり利用者数】18.1人</p> <p>【収支率】51.6% (対前年比:+17.6%) (対前々年比:+24.8%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。 神山まるごと高専の開校による学生利用者の増加等が要因だと考えられる。</p>	<p>次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。</p>
徳島バス株式会社	申請番号21 勝浦線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号21 勝浦線></p> <p>【利用者数】74,719人/年 (対前年比:114.5%) (対前々年比:101.6%)</p> <p>【1便あたり利用者数】23.6人</p> <p>【収支率】44.0% (対前年比:+3.1%) (対前々年比:▲4.5%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。 新型コロナウイルスの5類移行による需要回復などもあり収支が改善したと考えられる。</p>	<p>次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。</p>
徳島バス株式会社	申請番号22 あいさい線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。 利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。 また、計画的に毎年ノンストップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。 さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号22 あいさい線></p> <p>【利用者数】26,282人/年 (対前年比:191.9%) (対前々年比:109.5%)</p> <p>【1便あたり利用者数】14.4人</p> <p>【収支率】24.6% (対前年比:+5.7%) (対前々年比:▲3.9%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。 新型コロナウイルスの5類移行による需要回復などもあり収支が改善したと考えられる。</p>	<p>次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。</p>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
徳島バス株式会社	申請番号23 橋線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。</p> <p>利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。</p> <p>また、計画的に毎年ノンステップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。</p> <p>さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号23 橋線></p> <p>【利用者数】174,868人/年 (対前年比:157.4%) (対前々年比:134.7%)</p> <p>【1便あたり利用者数】33.4人</p> <p>【収支率】42.5% (対前年比:+6.3%) (対前々年比:+1.8%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。</p> <p>新型コロナウイルスの5類移行による需要回復などもあり収支が改善したと考えられる。</p>	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。
徳島バス株式会社	申請番号24 丹生谷線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標については24系統中10系統に留まったが、地域のニーズに応じた路線再編が進められている。</p> <p>利用促進のためにフリー乗車券やキャンペーンを実施し、需要の掘り起こしを行っている。</p> <p>また、計画的に毎年ノンステップバスを購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 令和元年12月に策定した「次世代地域公共交通ビジョン」に基づき、「鳴門藍住線」を再編し、路線の最適化を進めた。</p> <p>さらに、公共交通を地域で支える取組として、夏休み子ども1日フリー乗車券の販売や、エコライフキャンペーンによるバスの利用促進、意識醸成を図った。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号24 丹生谷線></p> <p>【利用者数】57,184人/年 (対前年比:133.6%) (対前々年比:78.5%)</p> <p>【1便あたり利用者数】15.6人</p> <p>【収支率】31.6% (対前年比:+0.9%) (対前々年比:▲7.9%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できなかった。</p> <p>新型コロナウイルスの5類移行後、収支率や利用者数は回復傾向にあるものの、労働条件の改善として賃上げや、物価高騰により運行経費が増大したことが要因だと考えられる。</p>	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。
四国交通株式会社	申請番号1 井内線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標について2系統とも達成した。さらに、コミュニティバスとの連携を図るなど利用者の利便性向上に努めている。</p> <p>また、今回新たにノンステップバスを1両購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> 運転免許返納割引を実施し、利用者増に繋がる取組も継続して実施している。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号1 井内線></p> <p>【利用者数】26,602人/年 (対前年比:111.4%) (対前々年比:142.5%)</p> <p>【1便あたり利用者数】10.4人</p> <p>【収支率】39.7% (対前年比:+6.9%) (対前々年比:+14.6%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。</p> <p>新型コロナウイルスの5類移行による需要回復などもあり収支が改善したと考えられる。</p>	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
四国交通株式会社	申請番号2 祖谷線	<p><前回の評価結果の概要> 収支率1%改善の目標について2系統とも達成した。さらに、コミュニティバスとの連携を図るなど利用者の利便性向上に努めている。 また、今回新たにノンステップバスを1両購入し、バリアフリー化と老朽車両の更新に取り組んでいる。</p> <p><評価結果の反映状況> ヤマト運輸と連携した「貨客混載」等の収入の増加につながる取組を継続して実施した。 また、コミュニティバスとの連携を図り、利用者の利便性向上を図った。 また、運転免許返納割引を実施し、利用者増に繋がる取組も継続して実施している。</p>	A 事業は、概ね計画どおり適切に実施されている。	<p><申請番号2 祖谷線></p> <p>【利用者数】36,715人/年 (対前年比:112.9%) (対前々年比:99.6%)</p> <p>【1便あたり利用者数】25.1人</p> <p>【収支率】38.7% (対前年比:+9.3%) (対前々年比:+11.0%)</p> <p>路線の収支率を1%改善する目標は達成できた。 新型コロナウイルスの5類移行もあり、海外からのインバウンド観光客も増加したことから、利用が回復したと考えられる。</p>	次世代地域公共交通ビジョンに基づき、「路線の再編」、「JR駅・病院・商業施設への乗り入れ」、「パターンダイヤの導入」をはじめとした、運行の効率化、利便性の向上及び利用促進を進めていく。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画又は地域公共交通計画に基づく事業)

令和 7 年 1 月 24 日

協議会名: 徳島県地域公共交通協議会

評価対象事業名: 地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
徳島バス株式会社	バス車両7台の購入 (幹線補助対象系統での運行)	前回の事業評価結果に引き続き、ノンステップバスを導入。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 計画どおりノンステップバス導入を進めている。	今後も引き続き、ノンステップバスの導入を促進し、利便性の向上を図る。
四国交通株式会社	バス車両1台の購入 (幹線補助対象系統での運行)	令和5年度より、ノンステップバスを導入。	A 計画どおり事業は適切に実施された。	A 計画どおりノンステップバス導入を進めている。	今後も引き続き、ノンステップバスの導入を促進し、利便性の向上を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画(又は地域公共交通計画)との関連について

令和 7 年 1 月 24 日

協議会名:	徳島県地域公共交通協議会
評価対象事業名:	地域間幹線系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>本県の広域的・幹線的なバス路線は、「徳島駅」を中心に県北部・県南部・県西部方面に放射状に展開しており、地域の中核的病院、公立高等学校、大学、大型ショッピングセンターなど各地域の主要な施設にアクセスしている。</p> <p>大都市に比べ公共交通網が発達していない本県にとって、複数の市町村に跨る広域的・幹線的なバス路線は、通勤・通学、通院、買い物など幅広く利用され、県民生活には欠かせない重要な移動手段となっている。特に過疎・準過疎地域では、この広域的・幹線的なバス路線が広域移動する唯一の公共交通手段(移動手段)として地域住民の日常生活の大きな支えとなっている。</p> <p>一方、人口減少や少子高齢化、モータリゼーションの進展などを背景に、公共交通機関の利用者は減少の一途を辿り、バス事業者を取り巻く経営環境は益々厳しい状況にある。特に他県と比較して高齢化が進行している本県では、運転免許証の自主返納も増加しており、自動車を持たない者又は利用が困難となる者が、今後増大することが容易に想像でき、交通手段の確保が大きな行政課題となっている。</p> <p>このため、本県では、国の「地域公共交通確保維持事業」を活用し、本県の広域的・幹線的なバス路線を確保・維持し、地域住民が生活する上で欠かすことのできない生活交通手段を存続させていくことが必要である。</p>

事業実施と生活交通確保維持改善計画(又は地域公共交通計画)との関連について

令和 7 年 1 月 24 日

協議会名:	徳島県地域公共交通協議会
評価対象事業名:	車両減価償却費等国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	「地域間幹線系統確保維持費国庫補助金」の補助対象路線を運行するバス車両については、国の「車両減価償却費等国庫補助金」を活用することにより、計画的に更新を図ることで、輸送の安全性・快適性を確保するとともに、ノンステップバスの導入を促進し、高齢者など乗降に配慮が必要な利用者に対しても、その利便性の向上をさらに図ることとする。